

未来につなぐふくい魅える化プロジェクト

make.fUKUI



2021 PROJECT BOOK

<https://makef.jp/>

未来につなぐふくい魅える化プロジェクト

make.fUKUI

福井でつくろう、福井をつくろう

未来につなぐふくい魅える化プロジェクトは、「福井でつくろう、福井をつくろう」をテーマに、まちの魅力や価値の可視化を通して、地域を越えた“新たな人の流れの創出”を目指し、2016年に始動しました。

初年度より継続してきた事業創造プログラム・XSCHOOLをはじめ、これまで中小企業の採用力強化、学生アイデアソン、お試し居住企画、地元企業と地域外人材との探究活動・XSTUDIO、多様な価値観を共有する短期スクール・XSEMIなど、年度ごとにプログラムを再編しながら展開。地域内外の“創造人材が出会い混ざり合う”きっかけをつくってきました。

2021年度は新たなプログラムとして、地元企業の事業を軸としながら、さまざまな地域外人材が集い、企業がおかれている社会的状況や課題から新事業創出を目指すプログラム・INTERWEAVEを開催。また、これからのまちの姿を多角的な視点から考えるXSESSIONSを2日間にわたって開催し、まちづくり・アート・食・働き方など自分を起点としながら地域に関わる県内のスピーカーや国内外で活躍するゲストスピーカーとともに、創造性を培いながらまちとの関わり方を考える場を福井駅周辺で展開しました。

2021年度の取り組み

INTERWEAVE

PROJECT 1

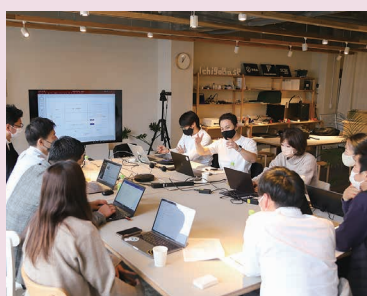
県内外の人材と 福井のパートナー企業が ともに未来を織りなすプログラム

2021年11月20日～21日 第1回集合ワークショップ
2022年1月15日～16日 第2回集合ワークショップ
2022年2月19日 発表会イベント

地元パートナー企業と全国から公募する多様な専門性やキャリアをもつ地域外人材がチームを結成し、ともに未来を見つめる視点をもちながら、新事業創出に取り組むプログラム・INTERWEAVEを開催しました。

2021年度は、福井の産品を取り扱う“かみみや”と永平寺門前に店舗をかまえる“いのうえ”がパートナー企業として参画。“かみみやプラットフォーム”と“INOUE STUDIO”のプロジェクトが始動しました。かみみやプラットフォームでは、ギフトの返礼を即時行うサービス“かみみやEXPRESS”や若年層の顧客開拓を目指したwebプロモーションを実践。“INOUE STUDIO”では、いのうえの新商品開発力に着目し、若手人材を育むインターンシップ事業や地域を越えて実践者同士がつながる・学び合うコミュニティの提案がされました。また、“プロジェクト横断チーム”からは、産・官・学・金・言や地域内外の人材が関わりながら、関係人口を創出するプラットフォームのあり方が提案されました。

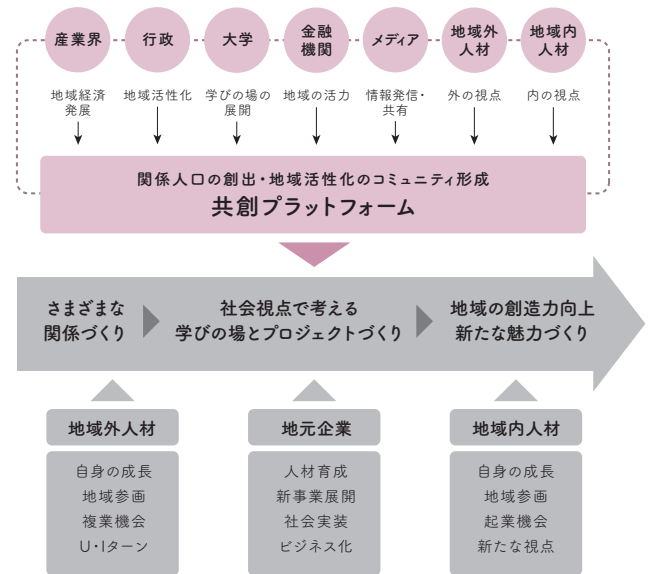
※プロジェクトブックの裏面には、福井新聞に掲載したINTERWEAVEの紙面を収録しています。



共創プラットフォーム

関係人口を育みながら、ともに成長できる連帯づくりへ

INTERWEAVEの運営メンバーで構成された「プロジェクト横断チーム」により、プロジェクトが継続的に生まれていくためには、多様な人たちが集うコミュニティが欠かせないと考察されました。近年、首都圏を中心に「複業」が浸透しつつあり、必ずしもお金のためだけではなく、個人の「やりたい」という気持ちが起点となって活動している人が増えています。産(産業界)官(行政)学(大学)金(金融機関)言(メディア)が連携し、ある程度の経済性は担保しながらも、お金だけではない「非金銭的な価値」をデザインすることが大切で、さまざまな形で多様な人材の出番と居場所を作ることの重要性を話し合いました。住む場所や組織を横断しながら多くの人が有機的な関係性を育むことで、地域を活性化する新たなプロジェクトが継続的に生まれ、地域の創造力向上と新たな魅力づくりにつながるプラットフォームを構想しました。



※プロジェクトを通して共創プラットフォームの一員となり、継続して関わっていく

XSESSIONS

PROJECT 2



これからの多様なくらしやしごと、
まちの姿をともに考える2日間

2022年3月5日～6日

JR福井駅周辺にあるまちなかの3会場を舞台に2日間のXSESSIONSを開催しました。福井県内で個人を起点としながら、まちづくり・食・アート・ものづくり・働き方などさまざまな状況をつくりだしている18名のスピーカーと国内外で活躍する3名のゲストスピーカーを迎え、異なる21のトークセッションから、わたしたちを取り巻く環境やくらし・しごとを再解釈し、多元的な視点からまちと人のつながりや関わり方を考えました。ゲストスピーカーの多木陽介さんからは、創造力の根源的な話をいただき、西村浩さんからは、実践的なまちの取組みから自身がまちに関わることで生み出す風景の可能性について、紫牟田伸子さんからは、都市と人の関わりをデザインする姿勢について学びました。

XSESSIONSに参加した100名以上の方が会場を移動しながら、今のまちの姿にふれ、さまざまなトークセッションと対話から、自身のあり方やまちとつながるきっかけとなりました。



2021年度NEWS



TOPIC 1

メンバーが独立起業！ トンカンテラスがオープン

2019・2020年度のXSCHOOL、そして本年度のINTERWEAVEにも参加した黒田悠生さん（福井市）が独立起業し、自身のプロジェクトであるトンカンテラスの開設準備を進めています。空間設計は、同じくXSCHOOLメンバーである建築士の高野麻実さんが担当。地域にもづくりの交流拠点がまもなく完成します。



TOPIC 2

ノカテの「SUISEN Bouquet」が全国へ 越前水仙をPR。チームも法人化へ！

これまでのプログラム参加者が集まって結成した「ノカテ」。2021年度はオリジナルプロダクトである「SUISEN Bouquet」のEC販売をスタートさせ販路を全国へ拡大させたほか、東京・北陸のショップで展示販売会を行うなど、精力的な活動を展開しました。またチームの法人化も果たすなど持続的な活動へと前進しています。



TOPIC 3

首都圏に拠点をおく（一社）Work Design Labが福井での拠点をXSTANDに開設
2021年度からスタートした地元企業と地域外人材による共創プログラムINTERWEAVE。橋梁団体として参加をした（一社）Work Design Labが福井に拠点を開設しました。本年度のプログラムを機に、同団体に所属するメンバーが福井でのワーケーションやプログラムに参加する拠点としてXSTANDを活用していきます。



TOPIC 4

福井市の社会実験に チームメンバーが参画

福井駅周辺で2021年10月に行われた歩道を利用したにぎわい創出事業「ふくみち」。この新たな社会実験に「みんなで図書館をつくらうプロジェクト（仮）」（XSCHOOL2019）から名称を「dig books（ディグブックス）」に改めたプロジェクトメンバーが参加しました。私設図書館の代替などメンバーのペースで活動が継続しています。



TOPIC 5

過去のパートナー企業が中心となり、 新プロジェクト「MADEBY」が発足

荒井（XSCHOOL2017）、明林繊維（XSTUDIO2018）、松川レビヤン（XSCHOOL2020）らプロジェクトの年度を越えたパートナー企業が中心となり、繊維産地の新しいプロジェクト「MADEBY」が発足。旧来の分業から連帯による地域完結のエコロジーなものづくりへと転換を図る活動をスタートさせました。



TOPIC 6

福井との関係づくりを案内する 『福井のPin!』が発刊

これまでのmake.flに関わったメンバーが数多く携わり、福井との縁をつくる関係案内人ガイドブックが完成しました。ワークショップや取材活動など冊子づくり自体を地域の様々な方々自身にとともに取り組んでいた過程を通して、さらに新たな関係が生まれています。

CREDIT

PROJECT1 INTERWEAVE

参加者：石川貴志、伊藤紗恵、大橋裕介、倉増京平、黒田悠生、田島紡蘭、田川裕大、塚崎純代、山田孝雄 パートナー企業：株式会社かぢみや、株式会社いのうえ 協力：一般社団法人Work Design Lab、一般社団法人BEAU 運営：坂田守史、宮下浩一、井波尚大

PROJECT2 XSESSIONS

スピーカー：時岡壮太（株式会社デキタ）、荒井章宏（株式会社荒井）、服部順一（福井ユニテッド株式会社）、志野佑介（志野製塩所）、谷橋洋平（美味しい学研究所。）、米村智裕（うみのいえ代表）、野田恭平（バーこうみんかん）、岩崎正夫（まちづくり福井株式会社）、高岡勇治（Sanpo Design office）、永井宏昌（福井市職員）、前田健児（福井県職員）、中上久範（新栄リビング）、倉橋藍（オテシオ）、桑原圭（合同会社越前おおの荒島社）、ノカテ、大連達揮（株式会社akeru）、黒田悠生（トンカンテラス）、西野ひかる（アニメアーナ） ゲストスピーカー：多木陽介（批評家／アーティスト）、西村浩（建築家／クリエイティブディレクター）、紫牟田伸子（編集家／プロジェクトエディター／デザインプロデューサー） コーディネーター：浅野桃子、黒田悠生、高野麻実、前田健児 プログラムディレクター：坂田守史（ディレクター・プランナー／株式会社デザインスタジオ・ピネン）、原田祐馬（デザイナー／UMA/design farm代表）、多田智美（編集者／MUESUM代表）、内田友紀（都市デザイナー／株式会社リ・パブリックシニアディレクター）、高野翔（福井県立大学地域経済研究所・准教授） 撮影協力：高橋良典、倉橋一気 会場協力：未来Lab.、クマゴローカフェ、XSTAND 運営サポート：石田空社（福井大学）、田川裕大（福井県立大学）、榊井聖佳（福井大学）、村上明日香（福井大学） 運営：坂田守史、宮下浩一、井波尚大

make.fUKUI WEB

デザイン：中村文信（SEWI） コーディング：渡利祥太（ケアン） 執筆：石原藍 進行管理：宮下浩一、井波尚大

STAFF

全体運営：株式会社福井新聞社 [林明美、宮下浩一、井波尚大]、株式会社デザインスタジオ・ピネン [坂田守史]



未来につなぐ
ふくい魅える化プロジェクト
<https://makef.jp/>

事業名：福井とつながる対流拡大事業 主宰：福井市 協力：国立大学法人 福井大学産学官連携本部、公立大学法人 福井県立大学 地域連携本部、株式会社福井銀行、株式会社福井新聞社 企画運営：株式会社福井新聞社、株式会社デザインスタジオ・ピネン

2022年3月発行 福井市未来づくり推進局まち未来創造課

INTERWEAVE 成果発表会 REPORT

地域企業と外部人材が新事業創出を起点に関係を育む

2022年2月19日、県内外の人材と福井のパートナー企業が新事業創出を目指す福井市主宰のプログラム「INTERWEAVE(インターウィーブ)」の成果発表会が、福井新聞社・風の森ホールで開催されました。

このプログラムでは、20~40代の俳優、税理士、学生など多様なメンバーがパートナー企業である「かまみや」(福井市)、「いのうえ」(永平寺町)とチームを組み、新事業を90日間にわたり練り上げてきました。

発表では関係人口の創出や新たなプロジェクトを継続的に生み出す産官学連携のプラットフォームづくりなどさまざまな構想が提案され、企業価値の向上にとどまらない地域全体の新たな可能性を感じる場となりました。



PROJECT かまみやプラットフォーム

MEMBER (左から)
山田孝雄さん / 木瀬将盛さん / 田島紡蘭さん
黒田悠生さん / 大橋裕介さん / 田川裕大さん

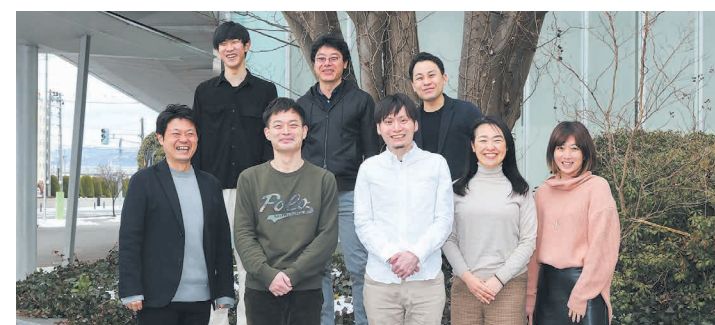
「かまみやチーム」は福井県内のあらゆる土産物を扱う株式会社かまみやをパートナー企業に、福井出身者や首都圏在住者など5名のメンバーで構成。はじめに店舗でフィールドワークを行い、福井の土産物事情の把握と課題の整理からスタートしました。かまみや社長の木瀬さんへのインタビューを通して浮かび上がってきたのは、若者層の顧客の獲得やデジタルマーケティングの必要性、既存のビジネスモデルからの転換といった複数の課題。

「商品を通じて福井の魅力を伝えること」をテーマに、メンバーそれぞれの知見を活かしたアイデアを90日間で試行錯誤しました。まずはデジタルマーケティングの実施。かまみやと言えば「ありがたい」が、かまみやで「ありがたい」を表現する。SNSや動画を使った発信に挑戦しました。福井で活躍しているYouTuberやよしもと住みます芸人とのタイアップで「1万円分かまみやで買い物をする」「ごはんに合うおかずをランキングで紹介」「地元酒造メーカーとのタイアップ」などさまざまな企画の動画を制作。社長自ら動画撮影にも挑戦し公開したところ、視聴者からの評判も上々でした。

さらに、販路拡大を狙った新たな販売方法も模索。コミュニケーションアプリを利用したギフトサービスの利用や駄菓子屋をイメー



ジした自分だけのかわいいお土産を作れる「かまみやビューフェ」、福井の特産品を詰め合わせた「宴会セット」、複雑な入力がなく二次元コードの読み取りだけでプレゼントを贈れる仕組み「かまみやエクスプレス」などユニークなアイデアが発表されました。今後はこれらの取り組みをかたちにしながら、福井の魅力を映す「かまみやプラットフォーム」の実現を目指します。



PROJECT INOUE STUDIO

MEMBER (左から)
田川裕大さん / 倉増京平さん / 石川貴志さん
大橋裕介さん / 山田孝雄さん / 井上才蔵さん / 塚崎純代さん / 伊藤紗恵さん

1929年の創業以来、大本山永平寺の門前町で多くの参拝客に親しまれている土産物屋「井の上」。4代目の井上才蔵さんによって、近年「永平寺だるまぶりん」をはじめとしたオリジナル商品を多数生み出しています。さらなる新商品の開発や門前町の活性化、福井ブランドの発信など、自社だけでなく福井全体を視野に今後を思い描く井上さん。そんな思いを実現させるために、税理士やスタートアップ、ITなどさまざまな分野に携わる首都圏在住のメンバーたちが集い、「INOUE STUDIO」と題した3つの活

動を発表しました。

1つ目が社内体制の整備。毎週メンバーたちがオンラインでミーティングを重ねるなかで、まずは井上さんが商品開発に注力できる環境づくりから整えていきました。適材適所でスタッフに任せる体制をつくるため、業務内容の整理や適任者のピックアップ、マネジメント教育などを実践。今まで以上にスタッフと丁寧なコミュニケーションを取りながら組織の足元固めをはかりました。

2つ目が、全国の商品開発者によるコミュニティづくり。地域で活躍する商品開発担当者たちがオンラインでつながることで、地域間の情報交換はもちろんのこと、新しい価値観の形成や自身の経験を共有することで、さまざまな学びを得られる場を目指していきます。

3つ目が地域貢献に興味のある首都圏の学生を対象にしたインターンプログラムの策定。企業にとっては人手不足の解消となり、学生たちにとってもアイデアの実践の場となるWin-Winの関係性を目指す仕組みを考えました。

地元企業が潜在的に抱えている課題を外の人たちによって見える化した「INOUE STUDIO」。地域を超えて多くの人たちが関わることで、福井発信の地域活性化を多角的に展開していきます。



INTERWEAVEとは?

福井を中心に活動する地元パートナー企業と全国から公募する多様な専門性やキャリアを持つメンバーがチームを結成し、ともに未来を見つめる視点をもちながら、地域や企業の資源と互いの学びを掛け合わせて、新事業創出に取り組むプログラムです。さまざまな状況が加速的に変化し、地域や企業にとって模索と試行をつづける今、可能性を広く描き、多様な人々のそれぞれの考えを混ぜ合わせることで、「ともに織りなす未来」を考え実践する場を福井に開きます。

INTERWEAVEパートナー企業の声



株式会社かまみや 代表取締役社長

木瀬将盛さん

今回、これまで必要だと感じながらも着手できていなかったデジタルマーケティングの部分で、さまざまなアイデアをいただきました。私自身、特に苦意識を感じていたのが「発信」。何から始めていいかわからない状態でしたが、メンバーの方々の幅広い知見により、県内の住みます芸人やYouTuberとのコラボレーションも実現し、「まずはやってみて始めてみる」との大切さを強く感じました。INTERWEAVEは業界業種問わず、新しい発信を求めている人にぜひ参加してほしいですね。今回は私もパートナー企業という立場でなく、メンバーとしてこれまで培ってきた小売りや流通の経験をお役に立てることができればと思っています。



株式会社いのうえ 専務取締役

井上才蔵さん

4年前に家業に入ってから、自社の商品開発を通じて永平寺門前町の活性化や福井を代表するブランドを作りたいという思いを持ち続けてきました。しかし、日々の業務に追われていると、地域のことまで考える余裕がないのが正直なところ。現状を打開するためにも、今回パートナー企業として参加しました。さまざまなバックグラウンドを持つメンバーのみならず、自分ごとのように弊社の課題と向き合ってくださる姿に心を打たれ、私自身パートナー企業というよりも、いちメンバーとしてとくに学ぶことができた90日間でした。今後もこのつながりを大切にしながら、少しずつ前に進んでいる姿をみなさんに見せられるよう頑張っていきたいと思っています。

メンバー：石川貴志(会社員 東京都)、山田孝雄(会社員 東京都・福井県出身)、塚崎純代(税理士 東京都・福井県出身)、伊藤紗恵(会社員 東京都)、大橋裕介(会社員 東京都)、倉増京平(自営業 東京都)、田島紡蘭(俳優 東京都)、黒田悠生(自営業 福井県)、田川裕大(学生 福井県)
協力：一般社団法人Work Design Lab、一般社団法人BEAU

組織や所属を横断した共創プラットフォーム

関係人口を育みながら、ともに成長できる連帯づくりへ

3つ目のプロジェクトとしてINTERWEAVEの運営メンバーも発表。90日間を通して見えた「新たなプロジェクトを継続的に生み出すプラットフォームの必要性」について両チームと運営に横断的に関わった「プロジェクト横断チーム」が提案しました。

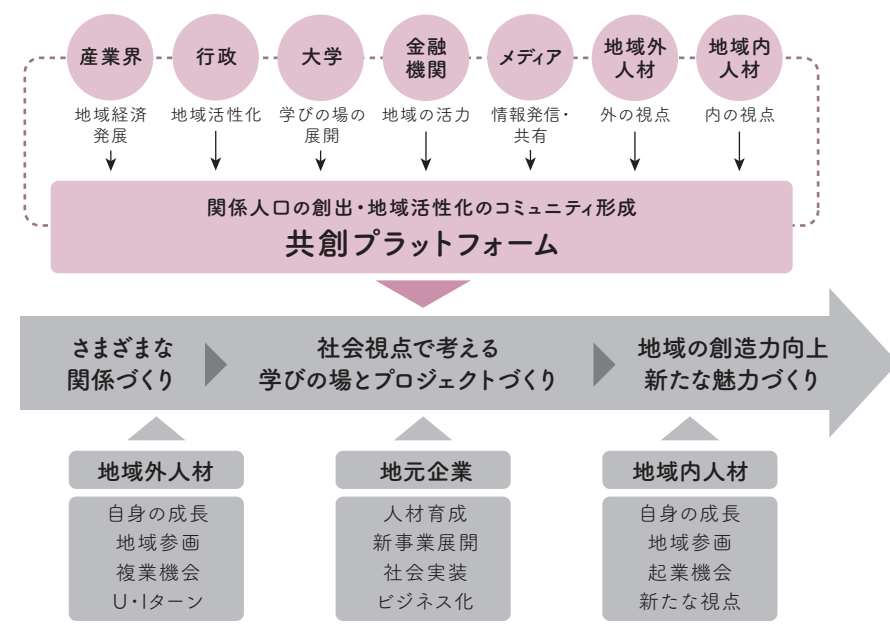
プロジェクトが継続的に生まれていくためには、多様な人たちが集うコミュニティが欠かせないと考察。特に近年、首都圏を中心に「複業」が浸透しつつありますが、必ずしもお金のためだけではなく、個人の「やりたい」という気持ちが起点となって活動してい

る人が増えているそうです。産(産業界)官(行政)学(大学)金(金融機関)言(メディア)が連携し、ある程度の経済性は担保しながらも、お金だけではない「非金銭的な価値」をデザインすることが大切と強調し、人生100年時代の到来で働き方に対する価値観が変化するなか、さまざまな形で多様な人材の出番と居場所を作ることの重要性を語りました。

また、今やオンラインで各地がつながるようになり、都市部にいながら地域の仕事に携わることも珍しくはありません。地域とのコミュニケーションが非日常か

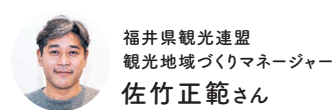
ら日常に変わりつつあるなかで、都市部と地域、組織の内と外の人材が互いに新しい結びつきを深めることが、地域への関わりしるを増やすことにつながります。

住む場所や組織を横断しながら多くの人が有機的な関係性を育むことで、地域を活性化させる新たなプロジェクトが継続的に生まれ、地域の創造力向上と新たな魅力づくりにつながるプラットフォームを構想しました。

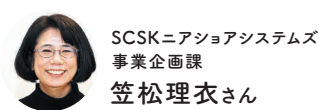


※プロジェクトを通して共創プラットフォームの一員となり、継続して関わっていく

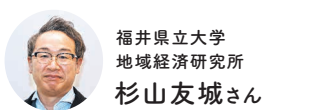
INTERWEAVE 成果発表会に参加して



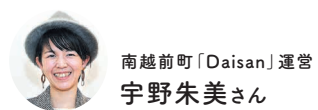
地元企業の支援を地域の人だけではなく、外の人たちが関わっていく仕組みが素晴らしいと感じました。今回のパートナー企業はお土産や永平寺門前町など、観光との親和性も高く、企業の活動が活発になることで地域の魅力も高まると期待しています。プラットフォームづくりはぜひ私も関わりたいですね。



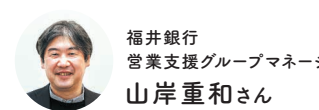
地元で貢献したいという思いは持ちつつも、ビジネスとしてかたちにするのは難しいもの。さまざまな地域から人が集い非金銭的な部分に重きを置いた活動は、特に福井のような地方で大変意義があると感じました。多種多様な人たちの発表を聞き、今日一日参加しただけでも大きな刺激を受けました。



提案して終わりではなく、今後も継続していく熱意と期待を感じられる成果報告会でした。一つの課題に向き合いながら大人の本気度や責任感を理屈ではなく肌で感じることができた体験は財産だと思います。大学教育においても、学生たちをこのような学ぶ機会に積極的に巻き込んでいきたいと感じました。



外部のメンバーによって、パートナー企業の表面的な課題だけではなく、根本的な問題も解きほぐしていくプロセスがとてもいいなと思いました。私は今南越前町に住みながら町外の人たちに滞在してもらい取り組みを行っています。来る人も地域の人にも刺激になるような状況を生み出したいと感じました。



発表会の質疑応答では、メンバーのみなさんが地元福井への恩返しへの気持ちや社会とのつながりなど、非金銭的な部分でさまざまなモチベーションを持っていることに驚き、感動しました。銀行としてもさまざまなキャリアを持つ方の知見をいただきながら、ぜひ一緒に関わっていけたらと感じたいですね。



普段東京に住んでいても、映画やドラマの撮影は地方で行うことも多いです。コロナ禍になり、移住を考えていた時にこのプロジェクトに参加し、二拠点居住や関係人口など地方とさまざまな関わり方ができることを知りながら俳優をやるような暮らしを実現したいですね。



誰もが地域を良くしたい思いはありますが、まちづくりなどのプロジェクトは収益性が担保されなければ長続きしません。その点、今回の発表では地元企業に根付く事業のヒントがふれており、企業が事業を持続させることで関係人口の広がりにつながることに期待が持てる内容でした。今後の成果に期待します!

発表会当日の様子をYouTubeで見ることができます。ぜひご覧ください。



未来につなぐふくい魅える化プロジェクトは、地域を超えた「新たな人の流れの創出」から「多様な関係人口の土壌を育む」ことを目指し、地元企業と外部人材による事業づくりや、これからのくらしごと、まちのあり方を様々な立場の方とともに考えるプログラムを実践しています。
事業名：福井とつながる対流拡大事業 主宰：福井市 協力：国立大学法人 福井大学産官連携本部、公立大学法人 福井県立大学 地域連携本部、株式会社福井銀行、株式会社福井新聞社 企画運営：株式会社福井新聞社、株式会社デザインスタジオ、ピエン

<https://makef.jp/>